

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	からあ		
○保護者評価実施期間	R8年3月20日		～ R8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	R8年3月20日		～ R8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	R8年4月10日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援スペースが広く、天井も高いため、開放感のある安全な環境で支援を行うことができる。また、静養室とは別に学習スペースやクールダウン用の個室を確保しており、児童の状態に応じた環境調整が可能である。	活動内容に応じて空間を使い分け、集団活動・個別支援・クールダウンを適切に切り替えることで、児童の情緒の安定と集中しやすい環境づくりを行っている。	各スペースの活用方法を職員間で共有・標準化するとともに、視覚支援や構造化を取り入れ、より児童一人ひとりに適した環境設定を強化していく。
2	畑での栽培や収穫、収穫物を活用した調理体験、おでかけ活動、言語聴覚士(ST)による個別支援、アート活動、体操など、多様な経験を積むことができるプログラムを提供している。	体験活動を単発で終わらせず、「育てる→収穫する→調理する→食べる」といった一連の流れを大切に、生活スキルや達成感につなげている。また、個別支援(ST)と集団活動を組み合わせ、子どもの特性や課題に応じた支援を行っている。	各プログラムの目的やねらいを明確化し、個別支援計画との連動を強化することで、より効果的な療育につなげていく。また、活動の振り返りを職員間で共有し、質の向上を図る。
3	保護者に対して丁寧な説明・連絡・報告を行うとともに、家庭での悩みや不安にも寄り添いながら支援を行っている。	LINEや電話を活用し、日々の様子や支援内容を分かりやすく伝えている。また、モニタリングを通して保護者の意向や家庭での困りごとを把握し、支援に反映している。	定期的なモニタリングの質を高めるとともに、情報共有の内容を統一し、より分かりやすく具体的なフィードバックができる体制を整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援計画の短期・長期目標が、日々の支援に十分に生かされていく。サイクルが十分に確立されていない。	目標と具体的な支援内容との結びつきが弱く、職員間での共有や理解に差がある。	個別支援計画の目標を具体的な支援行動に落とし込み、職員間で共有・確認する機会を設ける。また、記録やミーティングを通じて支援の振り返りを行い、一貫性のある支援につなげていく。
2	ペアレントトレーニング等の家族支援の実施が十分にできていない。	日々の療育支援を優先する中で、家族支援に特化したプログラムの実施体制が整っていない。	ペアレントトレーニングの導入に向けた検討を進めるとともに、モニタリングや面談の機会を活用し、家庭での関わり方について助言を行うなど、段階的に家族支援の充実を図る。
3	保育所等訪問支援の実施が十分にできていない。	訪問先との連携体制の構築や調整に時間を要しており、実施まで至っていない。	関係機関との連携強化を図り、訪問支援の必要性や役割について丁寧に説明を行う。また、実施体制を整備し、計画的に保育所等訪問支援を実施できるよう取り組む。